



バレイシヨ「アイマサリ」はジャガイモシストセンチュウとジャガイモYウイルスに抵抗性があり、早期肥大性に優れ、大玉の品種特性があります。一方で、小玉が求められる種バレイシヨ生産では種芋規格内収量割合が低くなる傾向にあります。植え付け前の塊茎へのジベレリン処理は株当たりの芋数を増加させ、塊茎1個の重さを軽くする効果があります。その程度は品種によって異なります。そこで、「アイマサリ」のジベレリン処理の効果を調査しました。

ジベレリン処理を行うと、出芽期は5日早くなりまし、株当たりの芋数は多く、

収量は微増し、1個平均重は軽くなりました。また、無処理と比べ、種芋規格内収量割合(L+S)は20%増加し、規格内収量は1ヶ当たり10

バレイシヨ「アイマサリ」 ジベレリン処理効果検証

1個平均重は軽量化 規格内収量増に有効

0.5多くなりました。茎長の変化はなく、ジベレリン処理を行うことによる障害は見られませんでした。植え付け前の種芋にジベレリン処理をすることは規格内収量を増加さ

せる有効な手段だと考えられます。

(県農林技術開発センター 畑作営農研究部門 中山間 営農研究室 主任研究員 松本健資)

「アイマサリ」種芋へのジベレリン(GA)処理の有無と生育および収量性

GA処理の有無	出芽期 (月/日)	茎長 (cm)	茎数 (本/株)	芋数 (個/株)	収量規格別割合(%)			収量 (kg/a)	種芋規格割合 (%)	規格内収量 (kg/a)	1個平均重 (g/個)
					2L	L	M・S				
有	3/10	38	3.4	5.6	15	32	53	394	85	335	106
無	3/15	38	2.4	4.0	35	38	27	351	65	236	136

※階級:(規格外)2L:~191g、(規格内)L:190~121g、M・S:120~41g
 ※2022年、23年の平均値
 ※植え付け日:1月29日(2022年)、2月1日(23年) 収穫日:5月16日(22年)、5月10日(23年)
 ※ジベレリン処理:10ppmに希釈し、種芋を30秒間浸漬
 ※ジベレリン浸漬処理後は、十分に風乾する
 ※十分に効果を得るには、植え付け日より2週間以上前の処理が望ましい